

世界が進むチカラになる。



景気ウォッチャー調査 (東海地区:2024年1月)

2024年2月8日

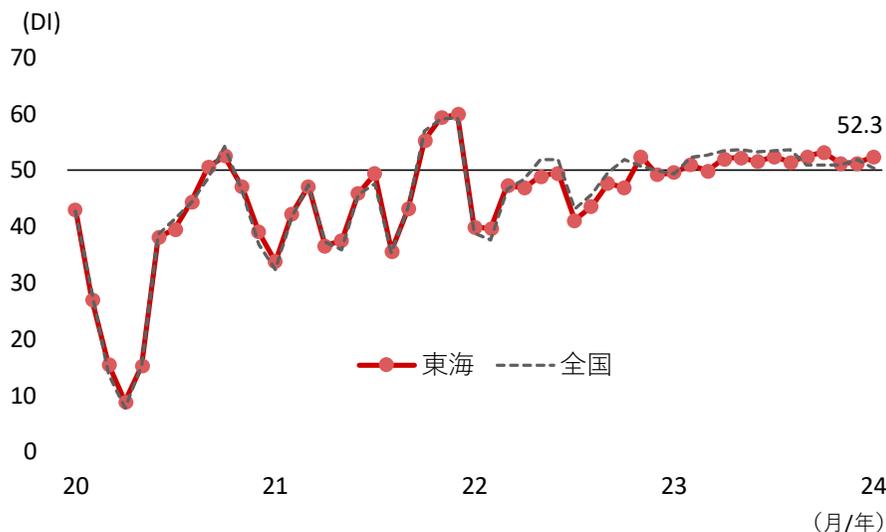
調査部 主任研究員 塚田 裕昭

2024年1月の動き(東海地区)

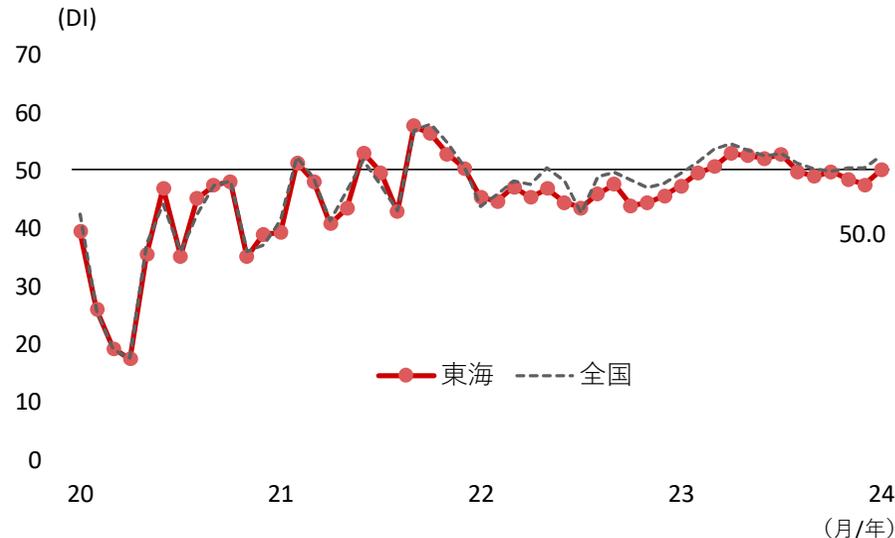
2月8日に内閣府が公表した「景気ウォッチャー調査」によると、東海地区の1月の

- 現状判断DI(季節調整値)は、前月差1.2ポイント上昇の52.3となった。
- 先行き判断DI(季節調整値)は、前月差2.5ポイント上昇の50.0となった。
- 景況感に持ち直しの動きがみられる。先行きについては、春物商戦への期待がみられる一方、物価上昇や収益環境の悪化が懸念されている。

現状判断DI(季節調整値)



先行き判断DI(季節調整値)



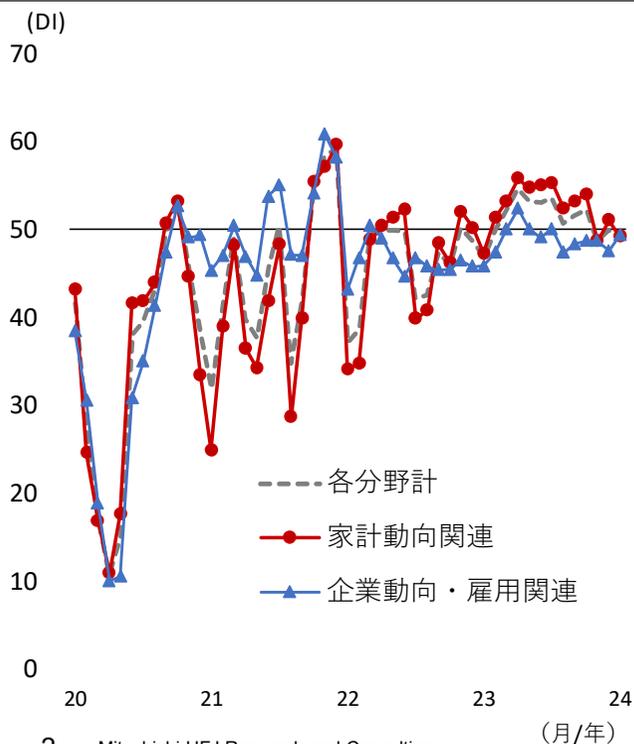
(全国の動き)

- 現状判断DI(季節調整値)は、前月差1.6ポイント低下の50.2となった。
- 先行き判断DI(季節調整値)は、前月差2.1ポイント上昇の52.5となった。
- 景気は、緩やかな回復基調が続いているものの、一服感がみられる。また、令和6年能登半島地震の影響もみられる。先行きについては、価格上昇の影響等を懸念しつつも、緩やかな回復が続くとみている。

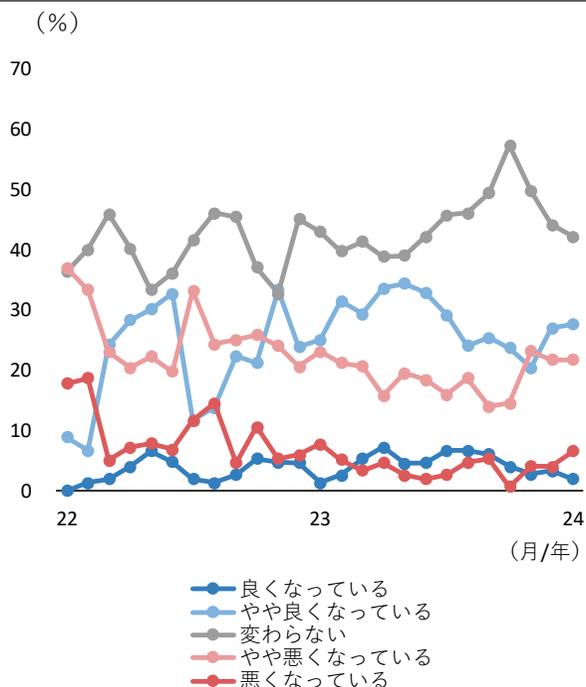
景気の現状判断(3ヵ月前との比較:原数値)

- 家計動向関連DIは横ばいを示す50を2ヵ月ぶりに下回り、企業動向・雇用関連DIは6ヵ月連続で下回った。
- 家計動向関連の回答構成比を見ると、改善方向(良くなっている+やや良くなっている)、「変わらない」が低下、悪化方向(悪くなっている+やや悪くなっている)が上昇した。
- 企業動向・雇用関連の回答構成比を見ると、改善方向(良くなっている+やや良くなっている)、「変わらない」が上昇、悪化方向(悪くなっている+やや悪くなっている)は低下した。

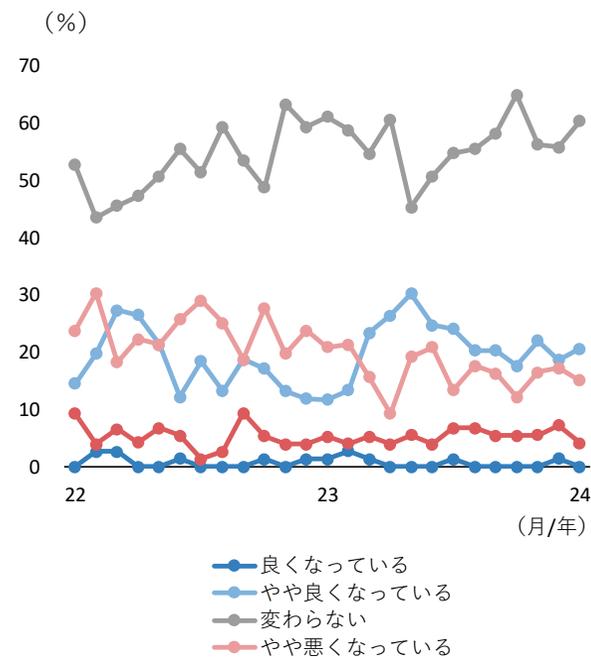
現状判断DI(原数値)



回答者構成比(家計動向関連)



回答者構成比(企業動向・雇用関連)



現状判断理由の概要

(注)コメント引用部左側の記号は以下の通り

◎:良くなっている、○:やや良くなっている、□:変わらない、▲:やや悪くなっている、×:悪くなっている

【家計動向関連】 来客数は伸びているものの、物価上昇により節約志向が高まっている模様である。

○	商店街（代表者）	・飲食店等の様子をみると、来客数は新型コロナウイルス感染症発生前と同程度に戻っているようだが、人手不足のため売上の増加が見込めない。インバウンドは増加しており、消費がかなり活発になっている。高級ブランド品店では、売上の8割がインバウンドによるとのことである。
□	一般小売店〔生花〕（経営者）	・財布のひもは固い。半額若しくは半額以下にした商品はすぐに売れるが、入荷したばかりでも正規価格の商品を買う客は減っている。
□	家電量販店（営業担当）	・テレビ、パソコン、エアコンや冷蔵庫など高単価の商品が悪いまま横ばいである。旧型でも良いと安い商品を求めている人も多い。
▲	スーパー（営業企画）	・来客数、買上点数が少しずつ減少している。原材料の価格高騰に伴う商品価格の上昇を、消費者も徐々に実感しているように見える。価格訴求型の競合店で来客数が増えている印象を受ける。
▲	コンビニ（店長）	・前年と比べて来客数は15%以上伸長しているが、販売数量の減少は非常に大きい。マスク等の医療品はコロナ禍が明けても伸長し続けているが、食料品の売上は値上げでも販売数量の減少分をカバーし切れていない。

【企業動向・雇用関連】 自動車関連は良い方向に進んでいるが、中小企業はコスト高により収益的に厳しそうだ。

○	パルプ・紙・紙加工品製造業（顧問）	・自動車関連の受注量、販売量が以前と同程度に戻っており、良い方向に進んでいる。青果物関連の受注も引き続き好調で、景気はやや良い。能登半島地震の影響は、距離が離れているため余り受けていない。
○	輸送用機械器具製造業（品質管理担当）	・客先の様子をみると、3か月前よりは生産計画が増えており、人も新しく雇い始めている。
□	建設業（営業担当）	・余った予算の執行で年末から年始にかけて忙しいという話を複数の取引先から耳にした。能登半島地震の被災地と距離の近さもあって、被災者支援に伴う調査作業等も仕事として入ってきている。景気が良いというわけではないが、周囲も含めて仕事量は増えている。
□	金融業（企画担当）	・中小企業を中心に仕入価格の上昇分を販売価格に転嫁できていない企業は多い。その影響もあり、従業員の賃上げを大企業のようにできない企業も多い。
□	新聞社〔求人広告〕（営業担当）	・首都圏の大手企業は景気も良くベースアップの勢いもあるが、当県の地元企業は、多くがコスト高のなかで決して良い状況ではない。

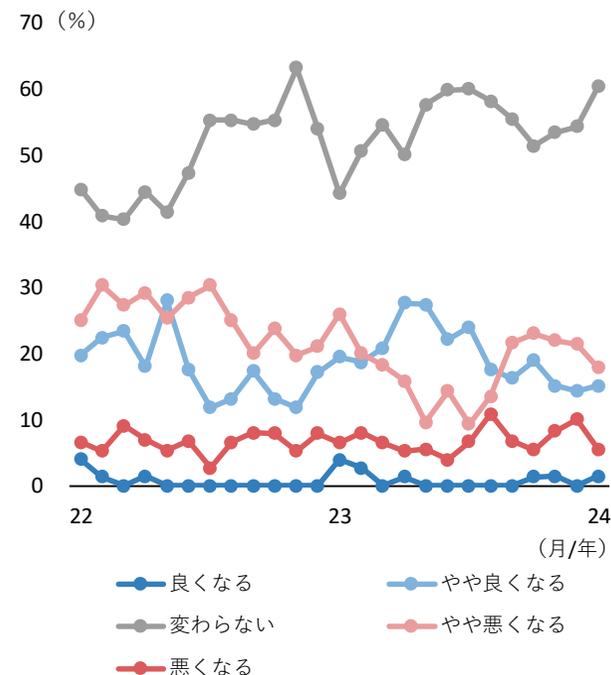
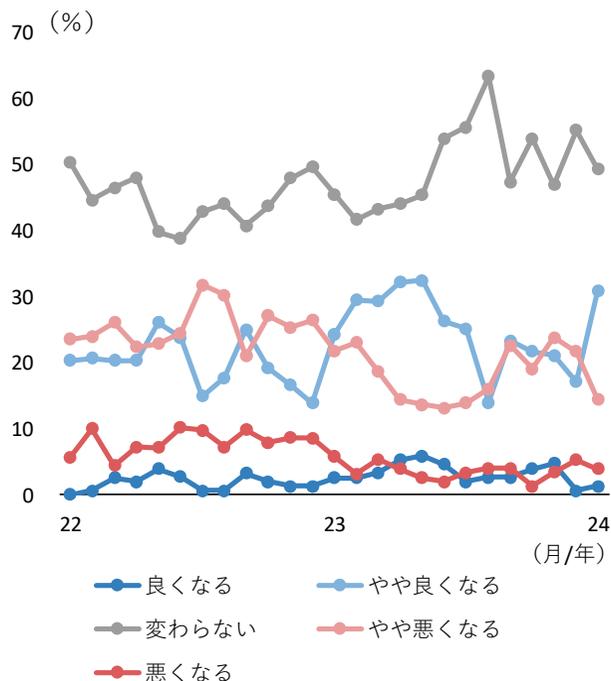
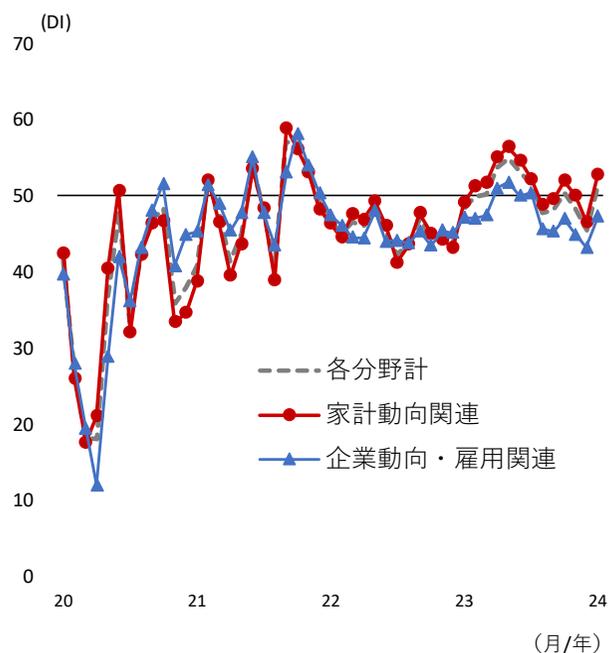
景気の先行き判断(2~3ヵ月先の見通し:原数値)

- 家計動向関連DIは、横ばいを示す50を上回った。企業動向・雇用関連DIは50を下回る状態が続いている。
- 家計動向関連の回答構成比を見ると、改善方向(良くなっている+やや良くなっている)が上昇、「変わらない」、悪化方向(悪くなっている+やや悪くなっている)は低下した。
- 企業動向・雇用関連の回答構成比を見ると、改善方向(良くなっている+やや良くなっている)、「変わらない」が上昇、悪化方向(悪くなっている+やや悪くなっている)が低下した。

先行き判断DI(原数値)

回答者構成比(家計動向関連)

回答者構成比(企業動向・雇用関連)



先行き判断理由の概要

(注)コメント引用部左側の記号は以下の通り

◎:良くなっている、○:やや良くなっている、□:変わらない、▲:やや悪くなっている、×:悪くなっている

【家計動向関連】 慎重な見方が散見されるが、春物商戦やインバウンドへの期待も見られる。

○	百貨店（企画担当）	・前年以來、景気は上向きに推移している。原材料コストや人的コストの上昇に伴って多くの商品が値上げしているが、消費者には受け入れられており、少し高くても良い物を購入したいという志向がみられる。また、株価の上昇に伴い富裕層顧客の購入の更なる活性化が期待でき、インバウンド増加による消費の拡大も続いており、この傾向はもうしばらく続く。
○	スーパー（店員）	・毎月のような値上げが落ち着いても客は安い商品を選択する傾向があるため、当社としては強みがある。
○	コンビニ（エリア担当）	・春に向かって来客数が増えることで、おにぎりや弁当などのメイン商材の売行きが伸長する。本年は新型コロナウイルス感染症による規制もないため、伸び率は高くなる見通しである。
○	家電量販店（営業担当）	・冬物商材が売れない足元よりは、新入学や新生活の需要で動きが出てくる。
□	百貨店（経理担当）	・インバウンド消費は拡大が続くが、インバウンド以外の一般消費についてはコロナ禍からの反動消費が一巡することで結果的に相殺となり、景気は現状の水準にとどまる。

【企業動向・雇用関連】 輸送用機械で改善を見込む一方、収益面での厳しさなどを指摘する声もある。

○	輸送用機械器具製造業（品質管理担当）	・社内のほとんどの部門で人員の追加を始めたので、景気は上向いている。
□	金属製品製造業（従業員）	・外注費、運送費や様々な資材価格が高騰し、利益の確保が本当に難しくなっている。
□	建設業（役員）	・不動産物件は資材高騰により販売価格が上昇しているため、客の予算とかい離がある。他社との競合もあり、まだまだ苦戦する見込みである。
□	会計事務所（職員）	・昇給の時期になり、賃金の上昇圧力が強いので事業主は賃上げを予定している。ただし、給与の上昇に合わせて社会保険料や税金も上がっていくため、手取りではそれほど上がらない。万一のため支出を控える傾向は、変わらないのではないかと。
□	人材派遣会社（営業担当）	・求人数の増加要因は多いが、求職者の増加が見込めないため、採用数に大きな変化はないと予想する。

ご利用に際して

- 本資料は、執筆時点で信頼できると思われる各種データに基づいて作成されていますが、当社はその正確性、完全性を保証するものではありません。
- また、本資料は、執筆者の見解に基づき作成されたものであり、当社の統一的な見解を示すものではありません。
- 本資料に基づくお客さまの決定、行為、およびその結果について、当社は一切の責任を負いません。ご利用にあたっては、お客さまご自身でご判断くださいますようお願い申し上げます。
- 本資料は、著作物であり、著作権法に基づき保護されています。著作権法の定めに従い、引用する際は、必ず、出所:三菱UFJリサーチ&コンサルティングと明記してください。
- 本資料の全文または一部を転載・複製する際は著作権者の許諾が必要ですので、当社までご連絡ください。

(お問い合わせ)

調査・開発本部 調査部 塚田

TEL: 03-6733-1626 E-mail: chosa-report@murc.jp

〒105-8501

東京都港区虎ノ門5-11-2 オランダヒルズ森タワー